

## (書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	村山武彦 (東京工業大学)
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	<p>大学院博士課程の頃より本学会の学会誌や年次大会等を通じて、同じ分野の研究に携わっておられる先生方と交流を深めてきました。リスクアセスメントの分野から研究を始め、化学物質に関連したコミュニケーションや対話に注力している関係で、リスク研究の幅の広さを実感しており、リスク研究に関連した国内外の学術的な団体との連携を、より深めるが求められているように感じます。</p> <p>また、これまで20年を超える学会の歴史を振り返り今後の方向を見通すとともに、リスク研究という社会との関わりが深い分野を扱う学会として、より一層の情報発信や社会との交流を行う必要もあるように思います。以前、福島大学に所属していたことから、2011年の原発事故以降、県内の自治体や関連団体との交流を継続するとともに、化学工場の事故時におけるリスク管理のあり方についても検討を進めています。このような観点から、多少なりとも学会の発展のために貢献ができればと考えております。</p>
③ 本学会における 活動歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学会誌において研究論文のほか特別報告等を寄稿。</li> <li>・ 2006年につくば市で開かれた第19回年次大会において、特別講演。</li> <li>・ 2009年第22回年次大会 (早大) で、実行委員長として企画・運営に従事。</li> <li>・ 2010年度より理事 (事務局長)、編集委員会委員、リスクマネージャ委員会委員。</li> <li>・ 2018年アジアリスク会議の分科会座長。</li> <li>・ 2019年第32回年次大会 (東工大) で、実行委員長として企画・運営に従事。</li> </ul>
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	東京工業大学工学部助手、福島大学行政社会学部助教授、早稲田大学教授等を経て、リスク管理や環境アセスメント等に関わる教育研究に従事。その間、ブリティッシュ・コロンビア大学客員教授、ラトガース大学客員研究員などを歴任。

## (書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者名	村山武彦教授 (東京工業大学)
② 推薦者の姓名と所属	東海明宏 (大阪大学)
③ 推薦理由 (400 字程度)	<p>村山武彦氏は、先駆けてアスベストのリスク評価・管理に関する研究を'80年代から'90年代初めにかけて実施した、日本で数少ない公共政策・計画学の視点で環境アセスメント、環境リスク研究を推進してきた。村山武彦氏は、一貫して環境リスクに関する現実問題の解決に貢献する研究を通じ、環境アセスメント、リスク評価・管理・コミュニケーション、ガバナンスを統合的に推進する研究枠組みの構築を進められてこられた。特に 2011 年以降、原子力災害への危機管理の観点からの避難計画のあり方の検討を通じ社会へ発信してきている。</p> <p>本学会第 19 回年次大会における特別講演、第 22 回年次大会の実行委員長を担い、さらに法人化後の学会理事 (事務局長、編集委員会委員) を務められ、本学会活動における研究面と運営面の両方で貢献されてきた。直近では、2018 年 3 月関西大学開催されたアジアリスク研究会議で貢献されている。このように、</p>

村山武彦氏は本学会活動を理事として引き続き先導的に推進していただける適任者であると確信し、推薦する次第である。